

PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン
ニュースレター

巻頭・海外事業

誰も取り残さない SDGsのカギを握る 保健ボランティアとは？

CONTENTS

国内事業

南相馬心療カウンセリング支援事業
カウンセリングルームの移動を計画中

PHJ お知らせ掲示板

カンボジアとミャンマーで
新型コロナウイルス感染症対策の
緊急支援を実施



PHJ ミャンマー事業地のボランティア(母子保健推進員)

PHJお知らせ掲示板

カンボジアとミャンマーで 新型コロナウイルス感染症対策の緊急支援を実施

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が世界的に拡大し、PHJ事業地のカンボジア、ミャンマーでも感染者が発生しました。両国とも4月中旬に旧正月を迎え、隣国からの帰還労働者の入国による感染拡大が懸念されるなか、現地行政からの支援要請を受け、PHJは医療機関に必要な医療物資を寄贈しました。

ミャンマー：医療物資寄贈

PHJ ミャンマー事務所は、事業地のタコン郡保健局とレウエイ郡保健局より COVID-19 の感染疑い者への検査・治療のために必要な医療物資の支援要請を受け、4月と5月に寄贈を行いました。現在各保健局や管轄の病院や地域保健センターに配布・活用されています。

【寄贈した医療物資一覧】

第1回医療物資寄贈(総額約50万円)：4月7、8日

- ①非接触体温計：15台(タコン郡保健局：8台、レウエイ郡保健局7台)
- ②マスク個数：107箱(タコン郡保健局：61箱、レウエイ郡保健局46箱)
- ③アルコールジェル2.0リットル：70本(タコン郡保健局：40本、レウエイ郡保健局30本)
- ④医療用手袋(Mサイズ)：77箱(タコン郡保健局：44箱、レウエイ郡保健局33箱)

第2回医療物資寄贈(総額約16万円)：5月8日

- ①非接触体温計：10台(レウエイ郡保健局10台)
- ②マスク50枚/箱：40箱(レウエイ郡保健局40箱)
- ③医療用手袋100枚/箱(Mサイズ)：20箱(レウエイ郡保健局20箱)
- ④パルスオキシメーター(酸素飽和度測定器)：11個(タコン郡保健局6個、レウエイ郡保健局5個)



保健局への寄贈

カンボジア：医療物資寄贈と啓発活動を実施

PHJカンボジア事務所は4月末にPHJ事業地のストゥントロン保健行政区より、COVID-19の感染予防対策のための支援要請を受けました。そこでPHJの事業対象である4保健センターを含む、ストゥントロン保健行政区管轄の全12保健センター、保健ボランティアや母子保健ボランティアに対する医療物資の寄贈と、手洗いなど感染予防の啓発活動を実施しました。

【寄贈した医療物資一覧(総額約80万円)】

・ストゥントロン保健行政区内の医療施設への支援：4月20日

- ①非接触体温計：12台(12保健センター)
- ②マスク(50枚/箱)：494箱(保健行政区、地方病院、12保健センター)
- ③消毒液(1.0リットル)：120個(12保健センター)
- ④消毒ジェル(500ml)：240個(保健行政区、地方病院、12保健センター)
- ⑤感染予防啓発活動費：12保健センター各2回実施

・保健ボランティア・母子保健ボランティアへの支援：4月～6月

- ①マスク(50枚/箱)：3箱
- ②医療用手袋(100枚/箱)：3箱
- ③消毒液(1.0リットル)：4個
- ④石鹸：168個
- ⑤ペーパータオル：4個



保健行政区への寄贈

編集後記

数か月前は、世界中がウイルスの脅威に脅かされ、日常生活も、働き方も一変しているとは、想像もつきませんでした。改めて健康を守ることの大切さと、そして難しさを感じます。保健医療分野のPHJだからこそできることを真摯に取り組んでいこうと思います。皆さまの健康と一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。

発行：特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：佐野廣二 編集人：南部道子 発行日：2020年6月15日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：<https://www.ph-japan.org/>

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



A3.

1978年にWHOとUNICEFによる国際会議で採択された「アルマ・アタ宣言」では「2000年までにすべてのひとに健康を」というスローガンが設定されました。その方法論として提唱されたのが、プライマリー・ヘルス・ケア (PHC)です。PHCの重要かつ優れた点は、PHCがすべての住民が享受できるものであるべきという「公正さ」という理念と、保健医療サービスが医師や看護師という専門職からのみ与えられるのではなく、住民や患者の主体的な参加のもとで届けられるべきという「参加、オーナーシップ」という原則です。このPHCの実現には保健ボランティアは重要な存在となり、多くの事業で育成されています。

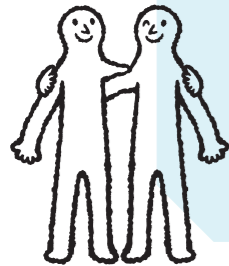
Q3.

多くの開発途上国で保健ボランティアが活躍していますが、そのきっかけは？

Q4. ボランティアのモチベーションはどうやって持続させるの？

A4.

保健ボランティアのモチベーションを保つポイントは「モノ、お金、知識、尊敬や感謝」という4つをうまく組み合わせることが効果的だといわれています。1番目のモノは、たとえばお揃いのTシャツや活動で使う物品を提供することで、帰属意識や責任感を高めることにつながります。2番目のお金は、交通費や食事補助など手当として現金を支給することで、ボランティア活動に費やす経済的な負担を軽減します。3番目の知識は、研修などを通して、新たな知識を得られることもメリットになりえます。4番目は、ボランティアとして活動を行うことで、コミュニティの中で尊敬され、住民から感謝される立場になり、自尊心や使命感が高められることも、継続の意思をささえます。最も大切なのは、ボランティアの「自発性」です。保健当局から、ボランティア活動への参加・継続を強制するものであってはいけません。



Q5.

SDGsの中で保健ボランティアの役割とは？

A5.

SDGsの基本理念は「誰一人取り残さない」。「目標3：すべての人に健康と福祉を」では、すべての人が負担可能な費用で、基本的な保健サービスを利用できる社会を目指すユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)の達成が盛り込まれています。UHCの達成により、誰一人取り残されることなく、必要な時に適切な医療を受けることができ、みんなが健康に生きる社会を目指しています。保健ボランティアは、住民と医療施設や医療従事者を結びつける橋渡し役として、社会サービスや支援が届きにくい人々に寄り添い、より健康的な考え方や行動の変化を促すのです。保健ボランティアの行動は、地道で目立たないものですが、このような一人ひとりの草の根レベルの行動こそが、現実の困難な壁を打ち破る大きな力となり、UHCやSDGsの達成に向けての重要な原動力になると考えます。



誰も取り残さないSDGsのカギを握る保健ボランティアとは？

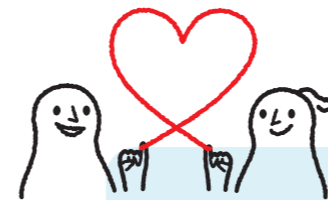
多くの発展途上国の地方農村地域では、複数の村に小さな医療施設が一つあるだけ。しかも医師ではなく、看護師や助産師が駐在していることがほとんどです。このように保健医療における施設や人材、交通機関や道路などのインフラが十分に整っていない国では住民から募った「保健ボランティア」が重要な役割を果たしています。そして、住民に最も近いところで、住民と同じ立場で寄り添い、住民の目線に立った「保健ボランティア」は、脆弱な立場の人々に光を当て誰一人取り残さないSDGs達成に不可欠な存在と言えます。

答えてくれた人

藤野 康之氏
(PHJ 東京事務所 海外事業支援部長)



相模原市出身。医学博士。英国の大学院を修了後、保健医療系NGOの海外職員やJICA専門家として、アフリカ、アジアの途上国における保健事業に従事。2019年9月にPHJに入職。



A1.

住民と医療施設や医療従事者の橋渡し役です。住民の健康状態や流行の病気、妊産婦と赤ちゃんの情報把握や、日常生活における衛生的・健康的な生活習慣の実践と普及、ケガや病気の際や妊婦健診・産婦検診等の保健サービスの受診促進などで大きく貢献することが期待されています。

Q1. そもそも保健ボランティアとは

A2

1970年代後半です。アジア、アフリカの国々が独立した1960年代は、医療サービスの大都市偏重、国家予算や外国援助の病院集中、農村部の医療従事者不足等の課題が顕著になりました。その後、1960年代末から70年代にかけて、健康は基本的人権の一つであるという意識が広まり、国民全体への基本的保健サービスの提供は、社会的責任だという考え方が芽生えました。70年代後半にはNGOによる草の根活動が活発になり、この鍵となるアクターがコミュニティ・ヘルス・ワーカーという保健ボランティアでした。その代表的な取り組みは中国の「はだしの医者プログラム」です。これを国家の保健医療サービスに適用することを考えるようになりました。



Q2. 保健ボランティアはいつ誕生したの？

Myanmar

ミャンマー

PHJ 事業地で活躍するボランティア 母子保健推進員

PHJ 事業地のミャンマーでは母子保健推進員というボランティアを育成しています。

母子保健推進員は日本の国際協力NGOが
ミャンマー保健スポーツ省と共に定めたボランティアの一形態で、
村の妊婦や産後の女性の所在を確認し、助産師と連携をはかり、
彼女たちが適切な時期にケアを受けることができるような役割を担っています。

母子保健推進員はコミュニティにいる妊婦や産後の女性が
漏れなく母子保健サービスを受けられるように助産師との橋渡し役となります。



母子保健推進員 Iさん 1児の母

Q1. 母子保健推進員に なった理由は？

妊婦さんと子どもの命を救うために、役に立ちたいと思ったからです。私自身、適切な知識がなかったことが原因で2人の子どもの命を失った過去があります。そのような辛い経験をなくすためにも、母子保健推進員として貢献したいと思っています。



ボランティア
活動を応援する
アイテム

Tシャツや
ダイアリーなど



Q2.

やりがいを感じるのはどんな時？

1年前、長時間陣痛の妊婦さんがお金が足りず病院への搬送ができませんでした。そこで寄付を募り、彼女を病院へ搬送し無事出産させることができました。このできごとはやりがいとなりました。



医療スタッフのボランティア 補助助産師も活躍

お母さんと赤ちゃん2人の命を助けられることをとても誇りに思いながら活動しています。助産師と村人の間に立ってコミュニケーションの橋渡し役となることで、村人から信頼・感謝されることが補助助産師としてのやりがいに繋がっています。

補助助産師
Tさん



あなたにとっての母子保健推進員さんとは？

お母さんの場合

Mさん

妊娠、出産、育児をサポートしてくれるだけでなく、例えば、安全な出産を実現するために貯金や出産計画を立てたほうがよいなど、とても有益なアドバイスをいただけて、頼りになる存在です。



医療スタッフの場合

Aさん 助産師

保健サービスがすみずみまで行き届くようサポートしてくれる重要な存在。以前は遠隔地の母子にサービスを届けられないことがありましたが、母子保健推進員の働きで地域ごとにきめ細かく提供できています。



Cambodia

カンボジア

PHJ 事業地で活躍するボランティア 母子保健ボランティア

PHJ 事業地のカンボジアには保健省の政策として選挙や任命で選ばれた「保健ボランティア」がいます。

各村で男女2名ずつが標準とされますが村長や寺の世話役つまり、
高齢の男性が担っている場合が少なくありません。

PHJの進める母子保健改善活動において、男性の保健ボランティアが妊産婦に
妊娠・出産についての知識を伝えたり、気軽な相談役になるのは現実的ではありません。

そこで PHJ は、出産経験がある女性のボランティア
「母子保健ボランティア」を育成することとなりました。



母子保健ボランティア Nさん 3児の母



Q1.

母子保健ボランティアに
なった理由は？

村長に勧められてはじめました。中学校卒業後に結婚して3人の子どもを出産し、自分の村からはほとんど出たことがなかったので、研修や活動を通して村の外に出たり、新しいことを学べることは貴重だと感じました。



ボランティア
活動を応援する
アイテム

ダイアリー



専用自転車



Q2. どんな時にやりがいを 感じますか？

産前産後のケアの大切さなど研修で学んだことを妊産婦に伝える時に、やりがいを感じます。出産を経験しているので妊産婦が直面している課題が見え、学んだ知識を使って解決へ導くお手伝いできるのは嬉しいです。



コミュニティ全体の 健康を包括的にサポートする 保健ボランティア

保健教育は妊産婦だけでなく、彼女たちの家族も受けることが大切です。自分の活動がコミュニティ全体を発展させることを信じています。



保健
ボランティア
Oさん



あなたにとっての母子保健ボランティアさんとは？

お母さんの場合

Nさん 2児の母

出産経験があって妊産婦に対して理解があり、信頼しています。保健センターで産前産後のケアを受けること、間隔妊娠について、子どものケアの大切さを知りました。



医療スタッフの場合

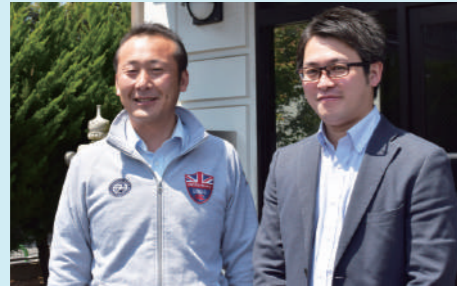
Tさん 助産師

この地域の人は産前産後のケアを知らず、迷信的な習慣も残っていました。母子保健ボランティアの啓発活動を通して保健センターに来院する妊産婦は増え、自身や子どものケアへの関心が高まりました。





ドリンクを買うだけで寄付ができる「寄付型自動販売機」という仕組みを提供し、PHJの支援に貢献してくださっているサントリービバレッジサービス(株)様。自動販売機を通じた社会貢献、さらには企業の健康経営のサポートなど一歩進んだ取り組みについてお話を伺いました。



首都圏営業本部 第二開発部長 望月 祐也 様
首都圏営業本部 第一開発部 開発二部 マネージャー 川久保 博史 様

支援企業訪問

今と、この先の健康をささえる自動販売機を。

サントリービバレッジサービス株式会社

SUNTORY BEVERAGE SERVICE
SUNTORY

設置の意義を高めた寄付型自動販売機

PHJを支援する寄付型自動販売機の設置を開始してから、ちょうど10年経ちます。これまでPHJのスタッフの方と協力しながら、企業や病院などの施設内にPHJの寄付型自動販売機を広め、現在約50社に、100台以上を設置することができました。PHJの方との会話を重ねるなかで発展途上国での取り組みや活動への想いを知ることができました。生まれた場所でもこうも格差があるのかと愕然とし、支援につながる寄付型自動販売機の意義を強く感じるすることができました。



横河商事株式会社様へ設置された寄付型自動販売機

自動販売機なら、従業員の方も気軽に社会貢献できる

今から10年前は屋外だけでなくオフィスや工場といった企業内への自動販売機の設置が広まりはじめた頃。2011年には東日本大震災があり、社会全体が「支援しよう」という気運が高まっていました。社会貢献を進めたいと考える企業にとっては単なる自動販売機を設置するだけでなく、寄付型自動販売機を置くことで、従業員の方に自社の社会貢献活動を認識してもらえることが魅力なのだと感じます。

健康経営にも一翼を担う自動販売機への進化

サントリーグループはトクホ(特定保健用食品)として販売された黒烏龍茶や胡麻麦茶など、他社に先駆けて健康を意識した商品を開発してきました。また企業内の自動販売機を活用して健康習慣を身につけてもらう「グリーンプラス」、さらに従業員の日々の食事や運動を管理するワンランク上の健康サービス「サントリープラス」も今夏開始予定です。健康経営を意識する多くの企業様に役立つ自動販売機になりうると考えています。

インタビューを終えて

— 飲料やアプリで会社の従業員の健康管理をサポートするサントリービバレッジサービス(株)様と、アジアの母子保健課題に取り組むPHJの活動には、「健康を継続的に支える」という共通のテーマが見えました。社会の課題解決の一助になる自動販売機を、ともに広げていければと思いました。

PROJECTS IN JAPAN



移動予定の移転後のカウンセリングルーム内

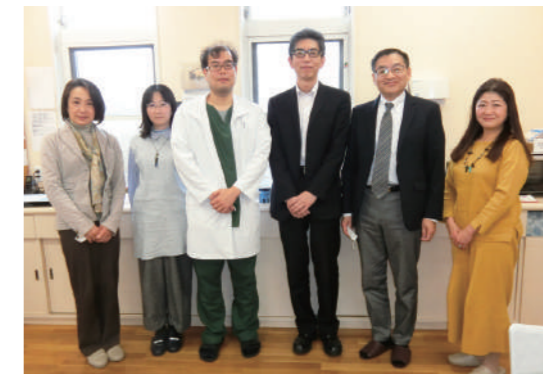
南相馬心療カウンセリング支援事業を開始してから1年で患者数は着実に増え、今後も新規の患者様を受け入れていく予定です。こうしたなかでカウンセリングルームはほりメンタルクリ

カウンセリングルームの移動を計画

福島県 南相馬市

東日本大震災支援

ニック内にあるため、共有の待合室が手狭になっていくこと、またほりメンタルクリニックの心療内科と心療カウンセリングが混合診療だという誤解が生まれやすいなどの理由から、カウンセリングルームの移動を検討することになりました。



4月2日に関係者が協議(左から石川 ATTI 理事、米倉臨床心理士、堀院長、加藤事務長、PHJ 佐野代表、榊原臨床心理士)

南相馬の心のケア分野をITで支援したいという想いから、株式会社日本HP様からパソコンとプリンターを5セットを、ほりメンタルクリニックをはじめ南相馬市の心のケアを担う医療・福祉施設へ寄贈いただきました。(株)日本HP様は東日本大震災以降、パソコンなどハード面での寄贈や社員によるボランティアなどを通して被災地支援を行っており、今回の寄贈もPHJの支援活動に共感いただいたことから、実現することとなりました。

パソコンとプリンターの寄贈

こうした状況の中で、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「緊急事態宣言」が発令されました。患者様と対面しながら長時間会話する心療カウンセリングは感染リスクが高いことから4月、5月は事業の実施を自粛。6月より再開に向けて準備を進めています。

カウンセリングルームだけでなく受付や待合室もあり、クライアント用の駐車場も確保されています。カウンセリングはこれまで通りほりメンタルクリニックと連携し、クリニックを通して患者様と通さない患者様の両方に対応していきます。

パソコンとプリンターの寄贈先一覧(予定)

- ① 相双に新しい精神医療・保健・福祉のシステムを作る会(なごみ)
- ② 一般社団法人ひきこもり支援センター
- ③ NPO 法人トイボックス
- ④ 南相馬カウンセリングルーム
- ⑤ 一般社団法人 Odaka Micro Stand Bar(おむすび)



寄贈されたパソコンとプリンターを受け取る堀院長